



FACE DUO



道ノ尾病院の紹介と取り組み

道ノ尾病院は昭和35年の創立以来、「患者さん一人ひとりの尊厳を大切にする」という理念のもと、地域に根ざした医療を提供してきました。多様なニーズに応えるため、治療内容だけでなく支援体制や療養環境の充実にも取り組んでいます。特にSSTは重要な役割を担っており、デイケアに限らず外来や病棟でも実施しています。薬物療法で安定してもコミュニケーションの課題から再入院に至るケースを防ぐため、継続的な支援を行い、患者さん同士やスタッフ間の関係性向上にもつながっています。



理事長 松本 一隆 先生

VR導入をソーシャルスキルトレーニング活性化のきっかけに

FACE DUO 導入前の 背景ときっかけ

● SSTの停滞

デイケア以外の病棟ではSSTの参加者が減少
従来のベーシックSSTの運営が難しくなり、活性化しづらい状況
「SST=地域生活者向け」という意識が強く、入院中の必要性が見えにくい課題があった。

● 入院患者にもSSTは必要

入院中でもコミュニケーション課題のある方は多く、地域生活を見据えるとSSTは不可欠
「場面のイメージ化」や「モチベーション維持」が難しいと感じていた。

● FACE DUO導入への期待

新しいツールとしてFACE DUOは状況を変えるきっかけになるのではと考えました。
評価していたポイントとしては
「おもしろさ」「わかりやすさ」「補助ツール」「個別でも集団でも利用可」



導入後の変化とその効果実感



若手スタッフ

- 認知機能が低下している方でも状況把握のしやすい、「こころの仕組図」の活用
- ネガティブな役はVRに頼ることができる
- コンテンツが豊富で困りごとを抽出しやすい
- 「進行ガイド」で自信を持って進行
- 患者の発言をアセスメントする余裕ができた
- 自己肯定感の向上

幅広い場面で活用

- VR-SSTとベーシックSSTをバランスよく活用
- 個別でも集団でも使える
- 急性期病棟・療養病棟・一般病棟・外来・デイケア 5か所での活用
- 個別では第三者視点により目的の外在化
- 外来「おもしろそう」通院のきっかけ
- 急性期病棟 発達特性の若年層と相性◎

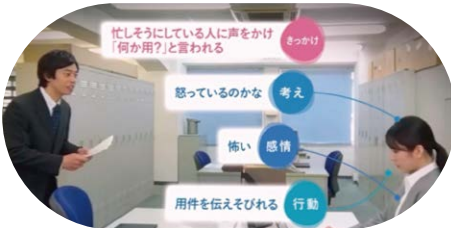
医師からの紹介

- 導入初期はスタッフ側から積極的に医師へ紹介
- 現在は医師のほうから紹介されるケースが増加
「コミュニケーションで困っている人がある」
「VRを試せそうな患者がいる」

当院での各部署での活用状況

活用場所	形態		スタッフ職種
急性期病棟	個別SST (FACEDUO)	病棟SSTグループ (B-SST)	OTR
療養病棟	病棟SSTグループ (B-SSTとFACEDUO)		NS+OTR
一般病棟	病棟SST (B-SSTからFACEDUOへ)	ARP (B-SSTからFACEDUOへ)	NS
外来OT	個別SST (FACEDUO)		OTR
デイケア	SSTグループ (B-SSTとFACEDUO)	リワークグループ (B-SSTとFACEDUO)	CP+OTR+NS

3か所の病棟、外来OT、デイケアの5か所でFACEDUOを活用している



こころの仕組図



若手作業療法士



VRを使用した患者さん・スタッフの変化や声

集団に入るの嫌
SST絶対やりたくない
だったのがSSTが楽しく
変わりました (療養病棟)

困り事はありませんが、すぐ役に
立っています、面白いです (外来OT)

「ネガティブな場面や相手役の
難易度が高いものがコンテンツ
としてあるのは有難い」
(ベテランスタッフ)

事業所に通うのが週
1日から4日になりました (外来通院)

障害者職業センターでの
学習とつながりました

「断る」練習をして、携帯
電話のオプションを断る
ことができました

「VRの方が流れが
決まっているので
進め易かった、参加者のプログラム
集中力も得やすい」
(SST初学者若手
スタッフ)



詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造 JOLLY GOOD!

2026年7月作成
FD2607001